

外来における小児在宅療養患児とその家族の支援 ～外来用フェイスシートを作成して～

キーワード：外来看護 小児看護 在宅療養患児

外来棟

藤岡博美 米沢栄子 正木晴美 倉田町恵

I. はじめに

A病院小児科外来では、多くの在宅療養患児(以下患児と略す)とその家族が1ヶ月に1～2度の専門外来を受診している。患児の年齢は0歳～20歳代と幅広く、多くは、出生時から障害を持っている。しかし、外来担当の看護師が、出生時からの患児の成長・発達の状況や患児の環境の変化などの情報を十分に認識・共有しているとは限らないのが現状である。そのため、患児の来院時に、日常生活の状態や障害の程度など、対応する看護師の認識の程度が違い、患児とその家族への対応が統一せず、十分なケアができない場面があった。外来看護では特に在宅での情報として、現在の患児を取り巻く背景・問題点・家族の不安などの情報を理解・認識して患児とその家族に対応する事が望ましいとされおり、そのため、患者情報を十分認識できないままで対応する事に、不安を感じている看護師が多かった。

今回、看護師が統一した認識を持って、患児とその家族に対応することができるように、患児の情報シート(以下、外来用フェイスシートと略す)を作成した。作成した外来用フェイスシートを活用する事で、外来看護を行う上で有用な一手段となることが示唆されたので、報告する。

II. 目的

1. 外来用フェイスシートを作成し、活用する事で、患児とその家族にどのような関わりができたかを明らかにする。
2. 外来用フェイスシートの有用性を検討する。

III. 方法

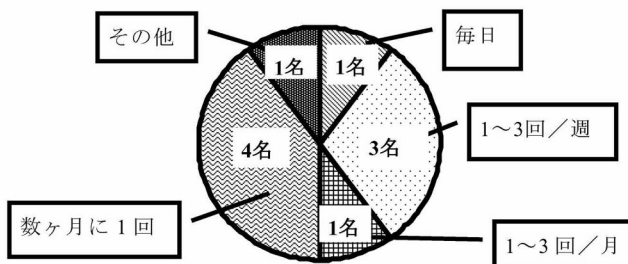
1. 研究期間：2011年8月～11月
2. 対象者：研究者を除く、研究期間中に小児科外来を担当した病棟及び外来看護師10名。
(以下対象者と略す)
3. 外来用フェイスシート(図1)は、表裏、1枚で患児の情報収集ができるようにし、全体像と個性性が把握しやすいように項目別に情報をまとめ、身体情報、セルフケア能力、社会資源の活用、家庭背景、看護ケア情報の5項目で構成して作成した。
4. 医療依存度が高い患児7名を対象として、電子カルテ及び患児・家族からの聞き取り調査で収集した情報を、外来用フェイスシートに記入し、患児個別の外来用フェイスシートを作成した。外来用フェイスシートを使用し、対象者が看護介入を行った後、研究者が独自に作成したアンケートに回答し、回収したアンケートにより、外来用フェイスシートの有用性を検討した。

5. 対象者へのアンケート（図 2）は、看護師の個人情報に関する内容と、外来用フェイスシートの活用について、看護師が患児・家族と関わる際の心理面の 3 項目とした。看護師の個人情報に関する内容は、外来勤務の頻度、経験年数、外来用フェイスシートを利用する前での患児・家族との関わりの程度、その患児の身体的情報や家庭背景の情報の認識の有無、外来用フェイスシートの利用回数とした。外来用フェイスシートの活用については、患児とその家族に関わった時間とその内容について質問した。看護介入の具体的な内容は自由記載とした。また、外来用フェイスシートの項目で役に立ったと感じた項目を 3 項目まで回答する形式とした。看護師の心理面については、外来用フェイスシート活用後に、患児とその家族に関わった際の感想と反応について質問した。
6. 倫理的配慮として、A 病院医薬品等治験・臨床研究等審査委員会です承を得た文書を用い、研究の主旨を患児・家族及び対象者に説明し、了承を得た。

IV. 結果

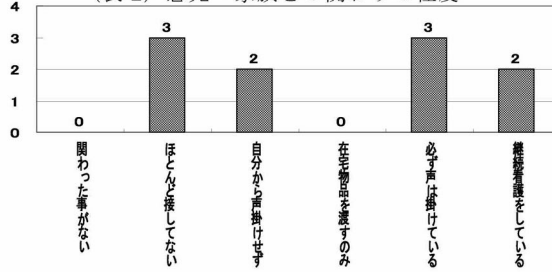
1. 外来用フェイスシート作成時の患児・家族への聞き取り調査は、1 人 20 分程度の面接で、倫理的配慮を行い、個別の部屋を準備して行った。患児・家族は、協力的で、患児・家族は、「普段の状態を知らないスタッフに一から説明するのは面倒」「患児の入院になるきっかけの症状について知っておいて欲しい」「病状以外の生活状況を伝える機会がないと感じていた」「外来に分かっている人がいるのといないのでは、外来受診のときの安心感が違う」という意見があった。さらに、聞き取り調査を行った全ての患児・家族から外来看護師に患児の病状や生活状況を知って欲しいという希望を持っていることがわかった。
2. 今回アンケートを行った対象看護師は 10 名（表 1）で、その外来勤務頻度は、毎日が 1 人、週に 1～3 回が 3 人、月に 1～3 回が 1 人、数ヶ月に 1 回が 4 人、その他が 1 人だった。また、看護師経験年数は、1～3 年目が 4 人、4～9 年目が 3 人、10 年目以上が 3 人だった。

（表 1）対象者の外来勤務頻度



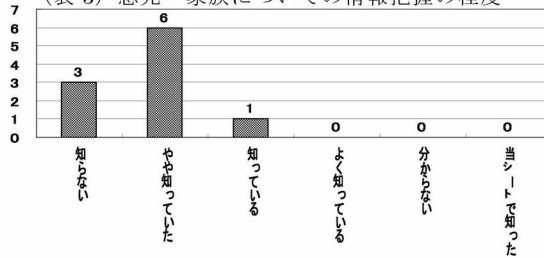
外来用フェイスシート活用前の対象看護師と患児・家族との関わりの程度（表 2）は、ほとんど接していないが 3 人、自分から声を掛けていないが 2 人、必ず声を掛けているが 3 人、現在継続看護を行っているが 2 人だった。

(表 2) 患児・家族との関わりの程度



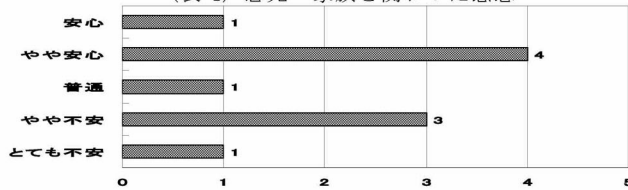
外来用フェイスシート活用前の対象看護師の患児・家族についての情報把握の程度(表 3)は、知らないが3人、やや知っていたが6人、知っているが1人だった。

(表 3) 患児・家族についての情報把握の程度



外来用フェイスシート活用後の患児・家族に関わった感想(表 4)として、安心が1人、やや安心が4人、普通が1人、やや不安が3人、とても不安が1人だった。安心・やや安心・普通と答えた対象者は6人で、その看護師経験年数は、1~3年が3人、4~9年が3人だった。やや不安、とても不安と答えた対象者は4人で、その看護師経験年数は、1~3年目が1人でそれ以外の3名は全て10年以上の看護師だった。安心・やや安心・普通と答えた対象者からは、「外来用フェイスシートで、患者情報を事前に知ることができた」「短時間で患児の経過を知ることができた」「問題点が明確で分かりやすい」などの回答があった。

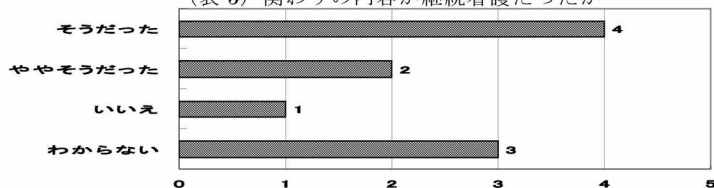
(表 4) 患児・家族に関わった感想



不安・とても不安と答えた対象者からは、「患児をあまり知らずに関わることで、患児や家族を不安にさせるのではないか」「関わる時間が短く、外来で継続的に何を支えることができるか考えさせられた」「関わったことがない患児・家族だったので、どんな母親かよく分からず話しかけて良かったのか不安になった」と回答があった。外来用フェイスシート活用後の患児・家族との関わりの内容(表 5)としては、継続看護・指導だった・ややそうだったと答えた看護師は、6人だった。継続看護・指導ではなかった・分からないと答えた看護師は4人だったが、その内3人は、具体的な

看護介入を行ったと回答があった。

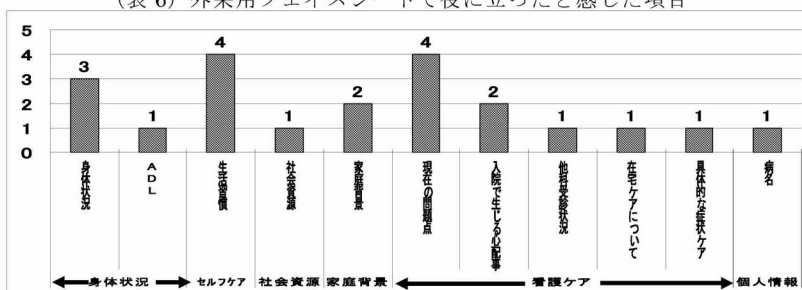
(表 5) 関わりの内容が継続看護だったか



対象者が実施した看護介入の内容は、褥瘡に関する事、在宅での生活状況や食事、治療に伴う生活変化、退院指導の確認、他科処置後の在宅状況、主な介護者の健康状態、胃管管理であった。看護介入の内容は、電子カルテに入力した上で、外来用フェイスシートの現在の問題点に追記し、今後も継続的に関わることができるようにした。また、患児・家族と関わった心理面で、不安・とても不安と感じた看護師は4人だったが、そのうち3人は褥瘡の確認や在宅ケアについて具体的な指導ができたと答え、継続看護だったかの問いについても「そうだった」と回答があった。

外来用フェイスシートを活用して役に立ったと感じた項目(表 6)については、大項目として、看護ケア、身体状況、セルフケア能力の順に回答があり、小項目では生活習慣、現在の問題点、身体状況、家庭背景、入院で生じる心配事の順に回答があった。

(表 6) 外来用フェイスシートで役に立ったと感じた項目



継続看護・指導の内容は、対象者が役に立ったと感じた項目から情報を得て、看護介入が行われたという結果であった。

対象者からのその他の意見として、「患児や家族が関わる中で、現在の問題点に焦点をあてて看護介入をしていたが、話しているうちに外来用フェイスシートにない情報を得ることができ、外来用フェイスシートに追記し、情報の共有化が図れ、次回の看護介入がしやすくなったと感じた」「キーパーソンの性格が書いてあると、初めて関わるときに話しやすい」「病棟と連携を取り、情報を共有できればより良いと感じた」「もっと外来でも十分に関わる時間が欲しかった」という意見があった。

V. 考察

聞き取り調査により、患児・家族は、外来看護師に対し、患児の身体情報だけでなく、家庭背景や社会資源など、その患児に必要な情報について共通した認識を持って関わってほしいと期待していることがわかった。金井は、「患者に向けてなされている看護がいつも看護であるためには、どの看護師も同じ理念のもとに、同じ方式で看護を展

開しなければならず、ここにも<看護の視点の共有化>という課題がある¹⁾と述べており、外来用フェイスシートの活用は、患児・家族の期待する看護を行う事が可能であり、また関わる看護師が統一した患児情報の認識を共有する有効な一手段であると考えられる。

アンケートの結果で、看護師の経験年数により、患児やその家族と関わる不安の内容や程度が違う事がわかったが、外来用フェイスシートを利用する事の不安ではなく、外来看護の特殊性についての不安を感じる内容だった。しかし、外来で患児・家族に関わる事が不安と答えた看護師でも、外来用フェイスシートを活用する事で、在宅療養についての指導や看護介入ができたと回答があった事から、外来用フェイスシートは看護師の看護介入について有用であったと考えられる。また、外来用フェイスシートの作成は、現在知り得ていない患児やその家族に関する情報を、外来看護師が直接聴取する事で、外来診療や外来看護において期待される役割を担うことにもつながり、理解したいという外来看護師の姿勢を患児及び家族に認識してもらう事で、今まで以上の人間関係の確立へとつながる機会になると考えられる。

VI. 今後の課題

松井は、「どのような疾患や障害をもつ子どもでも、地域で普通に安心して生活ができる支援を行う事、あるいはその子のことを知っている人がたくさん存在し、温かく見守られていることを子どもと家族が実感できる支援を行う事が小児医療の目標である²⁾と述べており、看護師は、患児や家族が安心して外来診療を受診するために、情報の共有化・認識の統一化を図る努力を行い、患児やその家族を支援しやすい環境づくりを提供しなければならない。

また、病棟と外来の連携など情報共有が円滑に行えるように、外来用フェイスシートの、修正・改良を検討し、電子化を視野に入れながら、外来用フェイスシートを活用し、より患児やその家族に寄り添える看護の充実を図る必要がある。

引用文献

- 1) 金井一薫：ナイチンゲール看護論・入門―看護であるものとなないもの”を見分ける眼，現代社，p187，1993.
- 2) 松井 潔：小児医療における地域医療連携の意義，小児看護，p14-21，2009.

参考文献

- 川田敦子：小児専門病院における地域医療連携の実際，小児看護，p28-33，2009.
- 有田直子：入院の場から地域へ人工呼吸療法を在宅で継続する子どもへのケア，小児看護，p29-55，2009.
- 浅井和江：今、なぜ外来看護記録なのか，外来看護最前線，p52-62，2006.
- 森田知佳子：北陸中央病院における外来看護記録の実際，外来看護最前線，p42-47，2006.
- 奥原真澄：こども病院における外来看護記録の役割，外来看護最前線，p11-16，2006.
- 井上由紀子・塩飽仁：小児がんにおける子どもと家族への看護ケアの継続的支援，小児看護，p1498-1504，2008.

記載日 / / 小児科外来フェイスシート 記載者

氏名	(か) / /	性別: 男 / 女	ID
生年月日	/ /	当院以外の通院医療施設	
住所			
病名			
<身体情報>			
		<input type="checkbox"/> 意識障害 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 乳幼児 <input type="checkbox"/> 歩行 <input type="checkbox"/> パギー <input type="checkbox"/> 寝たきり <input type="checkbox"/> 立位不可 <input type="checkbox"/> 立位可 <input type="checkbox"/> 座位不可 <input type="checkbox"/> 座位可 <input type="checkbox"/> つまみ立ち可	
食事	内容	<input type="checkbox"/> 母乳 <input type="checkbox"/> 人口乳 <input type="checkbox"/> 刻み食 <input type="checkbox"/> ミキサー食 <input type="checkbox"/> ペースト食 <input type="checkbox"/> エンターナルP <input type="checkbox"/> エンターナル <input type="checkbox"/> ラコール <input type="checkbox"/> 特殊ミルク() <input type="checkbox"/> 普通食 <input type="checkbox"/> その他	
	方法	<input type="checkbox"/> 胃管 <input type="checkbox"/> ED(ポンプ使用 有/無) <input type="checkbox"/> MT <input type="checkbox"/> IVH <input type="checkbox"/> 介助なし <input type="checkbox"/> 乳幼児 <input type="checkbox"/> 経口 <input type="checkbox"/> その他	
	回数	/日	
セルブケア能力	褥瘡	<input type="checkbox"/> 在宅褥瘡(/ /) <input type="checkbox"/> BIPAP <input type="checkbox"/> 人工呼吸器 <input type="checkbox"/> 管後のSpO2: % <input type="checkbox"/> 吸引(無 / 有) <input type="checkbox"/> その他	
	清潔	方法・頻度	
排泄	方法	<input type="checkbox"/> オムツ <input type="checkbox"/> 自己排便 <input type="checkbox"/> 簡便 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 排便回数(/日)	
	制度利用	<input type="checkbox"/> カラフカ <input type="checkbox"/> 自立支援 <input type="checkbox"/> 小児慢性特定疾患 <input type="checkbox"/> 重症心身障害児 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳(/級) <input type="checkbox"/> 障害者手帳 <input type="checkbox"/> その他	
福祉 社会 資源の 活用	種類	<input type="checkbox"/> つくし屋 <input type="checkbox"/> 手帳支援学校 <input type="checkbox"/> 地域の学校 <input type="checkbox"/> デイサービス (内容: / 回数: /週) <input type="checkbox"/> 訪問看護ST <input type="checkbox"/> その他	
	リハビリ	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有: / (目的: / 回数: /週)	

<家族構成> <介護の協力体制> 家族の協力力 無 □ 有 ()
* キーパターン:

<生活習慣>

家族構成

パターン1
*
本人 0 6 12 18 24 時
介護者 0 6 12 18 24 時

パターン2
*
本人 0 6 12 18 24 時
介護者 0 6 12 18 24 時

当院外受診状況 小児科 (担当医: 外業 Dr. 外業 Dr.)
他科:

在宅に必要な医療技術

入院する事で生じる心配事 □ 家族 □ 仕事 □ 人間関係 □ 経済的不安 □ その他
【内訳】

現在の問題点
【内訳】

看護ケア情報

(図1) 外来用フェイスシート

アンケート

<スタッフ個人情報> 外来用フェイスシートを使用する前の条件をお答え下さい。 月 日 ()

1. 小児科外来勤務の頻度
①毎日 ②1-3回/週 ③1-3回/2週 ④1-3回/月 ⑤数ヶ月に1回
2. 看護師経験年数 ①1-3年 ②4-9年 ③10年以上
3. 外来用フェイスシート利用前までで在宅療養意見 (以後、意見と統一) と聞わりはあるか
①ない ②ほとんどない ③自分から声かけはしていない ④在宅物品を渡すだけ
⑤必ず声掛けをしている ⑥継続した看護ケアを提案または内容を知っている
4. 本日起つた意見の障害や家庭背景、福祉利用状況の情報を知っているか
①知らない ②やや知っていた ③知っていた ④よく知っていた ⑤分からない
⑥前回、外来用フェイスシートを利用したので、知っている。
5. 外来用フェイスシートの利用回数 今回で () 回目

<外来用フェイスシートの活用について>

1. 意見・家族と関わりについて
 - 1) 関わった時間
①1-3分 ②6-10分 ③11-15分 ④16分以上 ⑤0分 (在宅物品を渡しただけなど)
 - 2) 関わった内容 ()
 - 3) その内容は、具体的な継続看護または指導だったか
①いいえ ②ややそうだった ③そうだった ④分からない
(内容)
 - 4) 関わった感想 ()
 - 5) 外来用フェイスシートの項目で役に立ったと感じた項目 (3項目まで) とその理由
① () ② () ③ ()
④役に立つ項目がなかった
理由 ()
※④と答えた方でアセスメントシートに追加する項目があれば記入
()
 2. 意見・家族と関わる際の心理面について
 - 1) 意見・家族との関わった際の感想
①とても不安 ②やや不安 ③普通 ④やや安心 ⑤安心 ⑥分からない
その理由 ()
 3. 意見・家族の反応
()
 4. その他 (情報収集にかかった時間や内容に関する事、その他の意見)
()
- ※ アンケートは、外来用フェイスシートを活用する毎に記入して、当日中に小児科外来の専用の箱に入れて下さい。

(図2) アンケート用紙